

## 【基本的な考え方】

- 先行事例や並行する路線バス等の運賃水準も参考に、現行のJR運賃と比較して、概ね1.3倍程度とする。
- JR函館駅といさりび鉄道各駅との乗継運賃は、最大2倍程度となる運賃を1.5倍程度に抑制できるよう協議を進める。

## 1 JR函館駅までの乗継割引について

普通乗車券については、当初、いさりび鉄道のみ割引を想定していたが、いさりび鉄道とJR北海道の双方で乗継割引を実施することとし、乗継運賃の抑制に向けて具体的な運賃設定の協議を進める。

※定期券については、経営計画どおり、いさりび鉄道とJR北海道の双方の運賃を割り引くこととし、具体的な内容について今後協議を進める。

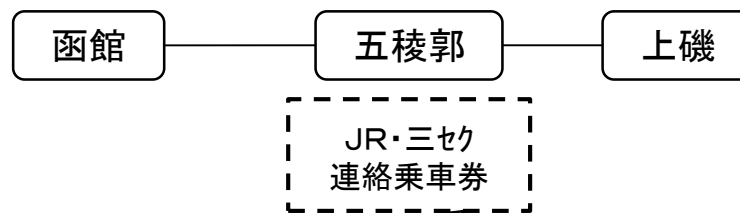
## 2 乗継回数券の設定について

いさりび鉄道の営業区間内の普通回数券(11枚綴り)のほか、JR函館駅といさりび鉄道との間の乗り継ぎについては、普通回数券と同様の特別企画乗車券(11枚綴り・双方で乗継割引)を設定する。

(通常)



(連絡乗車券)



※これまで通り、1枚の乗車券で利用できるよう、いさりび鉄道とJR北海道との連絡運輸を実施。

通常の普通回数券と同様、11枚綴り・3か月有効で設定(=特別企画乗車券)

## 3 JR駅での定期券の販売について

JR五稜郭駅及びJR(新幹線)木古内駅において、いさりび鉄道区間及びJR函館駅との連絡定期券を販売する。

また、JR函館駅のほか、JR新函館北斗駅を含むJR森駅までの有人駅において、いさりび鉄道とJR北海道の連絡運輸範囲内の駅との連絡定期券を販売する。

なお、通信販売や学校への出張販売等により、利用者の利便性を図るための取組を引き続き検討する。

